

## (23) アスパラガス

### ア 各病害虫の防除

疫病

茎枯病

白絹病

立枯病

斑点病

アブラムシ類

ネキリムシ類

ハスモンヨトウ

ヨトウムシ

オオタバコガ

アザミウマ類

ナメクジ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 疫病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。

### 茎枯病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 地上部が黄化した後、残茎はできるだけ低く刈り取り、ほ場から持ち出す。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。

### 白絹病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 植付け前に土壌消毒をする([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

### 立枯病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 株の草勢が衰えないように肥培管理を行う。
- 2 排水を良くする。
- 3 定植の時は、無病苗を用いる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 植付け前に土壌消毒をする([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 薬剤を施用（散布）する。

### 斑点病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 前年度の茎葉は片付ける。
- 2 過繁茂によるムレを防ぐようにする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用（散布）する。

### アブラムシ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

### ネキリムシ類

---

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害株周辺の幼虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## ハスモンヨトウ

・ [共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 若齢幼虫のうちに、薬剤を施用（散布）する。

## ヨトウムシ

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 3 種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を散布する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## オオタバコガ

・ [共通防除の章のオオタバコガの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 3 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。

- 2 寄生果を見つけ次第、除去する。
- 3 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 4 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫が多い。摘心した側枝や蕾は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 生物農薬を活用した防除を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。なお、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうので、早期発見、早期防除に重点を置く。

## アザミウマ類

---

・ [共通防除の章のアザミウマ類の防除の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。
- ※天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
- ※アザミウマ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- 2 くん煙剤の使用については、[共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方の項](#)を参照する。
  - 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## ナメクジ類

---

・ [共通防除の章のナメクジ・カタツムリの防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。
- 2 ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。
- 3 農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。
- 4 畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。
- 5 畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。